



hida

広 報

ひだ

町 木



第17号

肥 田 町
郷づくり委員会
H12. 5. 1発行

”郷づくり委員会”

藤野慶三郎

戦争で明け暮れた二十世紀前半から、戦後豊かな超経済大国と急成長した日本であったが、バブルの崩壊、多少の灯が見え始めた二十一世紀を来年に迎える本年は、有珠山の噴火、小淵総理の急病退陣と、多事多難な激動の年ではないかと思われまふ。

本年度より、介護保険制度が施行され、地方分権制度、又教育制度の見直しも進められ、二〇〇二年度より学校では完全週休二日制となり、地域社会での取り組みが、非常に大きな課題となつて参りました。

幸い肥田町では、五年前より先見の明があつたのか郷づくり委員会が設立され、恵まれた自然環境、残された伝統・遺産に感謝する心を忘れずに”郷づくりは人創”をモットーに、小さな事の積み重ねで、ふれあい・伝承・教養文化・環境・文化財・土地計画に取り組んで参りましたが、啓蒙運動の不足からか今一つ盛り上がりには欠けていた事を痛感しております。

この様な将来を考えた運動の主役は地域住民で、皆様が一体となつて、一人一人が肥田を愛する郷土愛に燃え、自ら進んで智慧と力を出し合つてこそ達成するもので、次代を背負つて頂く若い人達との心の通ふふれあいの場を大切に、他所の人達から羨ましがられる真似の出来ないすばらしい郷の発展に尽くしたいと思つています。

委員会も、より自治会との連携を密にし

て、いろいろな子供さんを対象にした催しを考えています。今後は自治会よりお知らせして頂く予定をして居ります。皆様奮つて御参加、御協力をお願い致します。

平成12年度

郷づくり委員会相談役

- ・自治会長 成宮 豊夫
- ・改良組合長 成宮 一郎
- ・福寿会々々長 山本 長蔵
- ・婦人会々々長 清水 賀寿子
- ・消防自警団長 辻野 賢治
- ・中学校委員 成宮 克美
- ・子供会々々長 矢守 貫一
- ・カンガルークラブ会長
- ・上公民社社長 青木 弥生
- ・藤野 人美
- ・登町公民社長 宮川 昌史

ご挨拶

自治会長 成宮 豊夫

この度、はからずも平成12年度肥田町自治会長の重責をお預かりいたす事となりました。私、もとより人格的にも会長という責任者の器でもなく、まして自治会運営につきましても何の知識、能力もなく、その上、齢もすでに70歳の高令に達し、身体的にも非常に危険な病気をかかえ、医師より注意を指示されている状態です。以上の様な中でお受けいたし、皆様には格段のご迷惑をおかけする事とは存じますが、何とぞよろしくご理解とご

容赦下さいますようお願い致します。

然しながら、一旦ご推挙頂きました以上は、各種役員各位を始め、町民皆様のご指導、ご協力を賜りながら精一杯の努力を致す所存です。何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

本年4月1日より、介護保険制度もスタート致し、少子高令化の急速な進行の象徴で、社会環境の変化と共に人々の考え方も著しく多様化しています。現今、多発する犯罪、不祥事に加え、有珠山噴火など意外な暗いニュースの連続ですが、幸い当肥田町では、小鳥の囀る田園風景の恵まれた自然環境の中、平和な日々を送っておりますが、何事にも社会の変化に遅れることなく順応し、よく考えて人に迷惑をかける責任ある行動をとることが肝要と考えます。

肥田町は、稲枝36自治会中、高令化率3番目の福寿の郷です。一層、福祉に配慮し、郷づくり委員会の皆様の提言を尊重し、町民各位の格段のご支援、ご協力を得て、活気のみならず明るい、住みよい郷づくりを目指して、役員一同力を合わせ、微力ながら町行政を進めたいと思ひます。

更なるご支援、ご協力をお願いいたし、ご挨拶といたします。

”人づくり”に情

山本 長孝

昨年度は、PTAを通じて生涯学習の機会をたくさんいただきました。そこで、子どもたちを取り巻く環境が激変していることに加え、五人の指導者（兄弟姉妹、祖父母、ガキ大将、自然、貧しさ）がいなくなりました。という現実を改めて考えさせられました。

いま、二〇〇二年度からの完全学校週五日制実施を踏まえ、地域の受け皿づくりが問われています。

一方で、人間らしからぬ凶悪犯罪が発生したり、お金を出しさえすれば何でも手に入

れられる現代。自己中心的で社会のルールを守ろうとしない子どもや、思いやりの心、いたわる気持ち、失われた子どもが数々の事件を巻き起こしている現状があります。

若い人が外に出、高齢化だけが進行していく現実には戸惑いを持つなかで、当町においては、子どもたちに文庫活動、あいさつ運動、伝承事業など様々な活動に取り組んでいただいていること大変うれしく思ひました。

また同時に「まちづくり」は「人づくり」と言われますが、「教育」も「人づくり」にあることから、学校、家庭、地域社会が丸となつて取り組んでいくことが大切であることを痛感しました。

ご入学おめでとう

ピカピカの一年生

今年の一年生は四名です。元氣いっぱい稲枝東小学校のよい子になってください。



伊関紗紀さん



伊関 創くん



中山正安くん



大村健人くん

お誕生おめでとう

なまえ 生年月日 父の名

陽ちゃん H12・2・14 岩尾 孝さん

亮太ちゃん H12・3・17 成宮伊佐夫さん

ご結婚おめでとう

鶴野隆清さん 峰子さん（平12・3・11）

緑 風

幼少の頃の思い出

「光陰矢の如し」私が生まれ育ったふる里をはなれてより四十余年の月日が過ぎ去りましたが、年を重ねるにつれ、ふる里は懐かしいものです。

帰郷する度に先づ目に入るのは整備された宇曾川周辺です。高橋と呼ばれる橋が、りっぱに架け替り公園をイメージする様な光景です。昔鬱蒼とした竹藪があり、地名「又蔵」と呼ぶ堤防の土地に我が家の畑があり、子供の頃に桑いちごやいたどりを取り夏ともなれば雑草の中に野生の百合が咲きとてもきれいでした。それを折って持ち帰ったなつかしい思い出があります。又甲虫や、金ぶんの住み家になっていた古木の柏木はどの辺にあったのかなと自然の姿の変わり様にさみしい気持ちにもなります。

私が尋常小学校の三年生の十二月八日に大東亜戦争が始まり、子供ながらに新聞の一面は戦果の記事ばかりだった事を記憶しております。肥田の字の中からも毎月の様に何人かの男子の方を出征軍人として送り出し日の丸の小旗をもつて字ぐるみでお見送りしました。

私の兄も愛国心に熱く十六才の若さで海軍の予科練に志願致しました。今だったら遊びたい盛りの少年とは思えない年なのによくも覚悟を決めて出て行ったと妹ながらに感心するばかりです。兄妹の別れも去る事ながら両親の気持はどんなにかつらかった事だろうと思います。その日から我が家の労働力も減り五年生だったわたしも家事は勿論、田畑の仕事まで頼りにされ鋤や鍬を握る手にまめが出来、でも我慢して手助けしました。

振り返れば私達の幼少から青春の時代は戦中戦後の直面した時代で衣食面は大変貧困の暮らしでした。家族の人数に合わせてお魚の配給をされ会議所の入口に一列に並んで買った思い出もあります。母は自分の私服を私達子供のモンペや洋服らしきものに再製してくれました。

私達の年代の人はみんなこの様な思い出で時代を乗り越えてこられたのだらうと思います。

現代と比較も出来ない生活だったけれど一度もつらいと思った事がなかったのは不思議なくらいです。

私も早や老人会の仲間入りをし、地域でささやかながら福祉のお手伝いを致しておりますが、今私があるのもふる里あってこそと感謝致しております。

肥田町の郷づくりに関わって下さる方がたに敬意を表し私のつたない思い出の一こまと致します。

豊郷町安食西 藤 旦子（旧姓森野）

カナダへの旅

伊関 展子



妹がカナダで結婚してより20数年、その間幾度か里帰りし、異国の様子がよく話題になり何時か一度訪れたいと念願していたが、この度、願いがかなって、二週間の予定で二人で旅をする事となった。

一抹の不安にかられながら早朝、稲枝駅に着くと、新幹線浜松駅で事故があり不通の知らせであったが、何としても行かねばと、在来線を利用し、夕刻成田着で一泊、翌日の飛行機で約16時間余りでトロントへ直行し、妹の車で「ナイヤガラ滝」へ案内された。道中道路巾は8車線もあるうが、日本の田舎で育った私には想像もつかない広さ、目にうつる広大な風景であった。殊に米国とカナダの国境にある大自然ナイヤガラ滝、水煙りをあげ滝つぼへ膨大な水が流れ落ちるさまは、滝という観念を越え、自然の大芸術に思いました。船で近づくとその異変に気づきました。山の姿もなく、果てしなく広がる平原の中から、「ゴゴ」と地を揺さぶるすさまじい音、滝に近づく、想像を絶する大量の水にしばしあ然とし、さきの轟音がこれであったと気づきました。滝の巾900メートル、高さ50メートルの滝、さすが世界一の

滝を目の前に、感激一しおのものがありません。夕刻、トロントの街へ素晴らしい夜景を見ながら宅へ着きました。街は総て整然と整備され、どの家も、厚みのあるじゅうたんが各部屋に敷かれ、豪華な生活である。外出ともなると湖の多い所かキャンピングカーで、湖のほとりでキャンプし遊覧が出来る様になっている。日本では軽井沢の避暑地を思わせる感じがしました。

私たちにとって生涯忘れられないことのできない素敵な旅を味わいました。

あじさい文庫開く！

4月23日には、ことしの第1回あじさい文庫を開きました。はじめて文庫に参加するお友だちも加わり、にぎやかな集いになりました。カンガルークラブ（幼児）小学生のみなさん40名が、本に親しみ、仲よく楽しいひとときをもちたいと考えています。



これからの幼児教育・学校教育の重要な柱として、学校・家庭・地域社会が密接な連け合いを図り、特に子どもの主体的・体験的活動を通して学ぶことの楽しさや成就感を味わうことが強調されています。文庫をはじめ地域で行われるいろいろな行事もぜひ積極的に参加をして、感動し、いつそうち豊かな人として成長されることを願っています。

みなさまのご理解とご支援をお願いします。

宇曾川クリーン活動の実施

去る3月5日には、郷づくり委員会及び自治会役員によるゴミ拾い、並に「さくら公園」樹木の下枝伐採作業が実施されました。

ゴミ拾いは、この行事を続けて数年になりますが、初年度に比べずいぶん減少していますが、まだ心なき人たちの行為によって汚されている事は悲しいことです。

公園の伐採作業は樹木も成長し、今後のより効果的な利用をめざしての作業が進められました。役員のみならず、苦勞さまでした。

郷づくり委員会環境部
自治会環境部



春 祭



4月9日（日）天稚彦神社春季大祭が執り行われました。天候にも恵まれ春を感じる良い一日となりました。今回は自分にとって最後である上に、上公民社社長という大役で参加したのでいろいろ大変でしたが、参加者全員怪我なく無事に務めさせて頂きありがたく思います。

慣れない着物姿でそうそう歩くことが無いので、いい経験になりました。来年からは見物させてもらいますが、この伝統ある祭りだけは時代が変わってもみんなに受け継いでもらいたいと思います。

上公民社社長 藤野 人美

寄 贈！

このたび、肥田町詩吟の会より、公民館備品として、りっぱなポット2台を寄贈されました。感謝いたしますと共に、たいせつに使用させていただきます。

肥田町自治会